

編集後記

初めて田上博司先生にお会いしたのは、私が帝塚山学院大学に非常勤講師として出講していた2001年のことだったと記憶している。もうかれこれ20年以上も昔のことである。当時、田上先生は帝塚山学院大学で授業を担当しつつ、メディアセンター副センター長、やがて総合情報センター長を務められ、21世紀初頭におけるWEB時代の情報教育を実践しておられた。インターネット時代を意識した教育について私と熱く語り合ったことが今でも強く印象に残っている。その後、縁あって2004年に私の勤務する阪南大学経営情報学部へ赴任されることになり、田上先生との交友は現在まで続いている。なお、田上先生の経歴・業績については本巻の冒頭に収められ、平山学長による献辞においても詳述されているので、ここでは多くを書く必要がない。

阪南大学経営情報学部では、デジタルサウンドやプロジェクションマッピングなどで学生たちの能力を信じ、共に創造するという授業スタイルを確立し、私が担当するビジネスデータ分析やeビジネス論といった科目（学問）群とも交差することが多く、思い出は尽きない。また、学長（2018～2024年）任期中には、「後期教養教育」（専門を学びはじめた後のリベラルアーツ教育）や「数理・データサイエンス・AI教育」（データに基づいて科学的な分析や予測を行う実践的な教育）において、田上先生が長年に亘って培ってきた知見を活かし、大いにイニシアティブを発揮されたことも記憶に新しい。

今回、『田上博司学長退任記念号（阪南論集特別号）』を発刊するにあたり、経営情報学部の同僚の先生方が編集委員の任を快くお引き受けてくださった。また、24本もの寄稿が集まったことも幸甚の至りである。執筆者は、経営情報学部16名、流通学部4名、経済学部1名、国際観光学部2名、国際コミュニケーション学部1名（2024年3月末時点での在籍学部）となっており、全学部にまたがる退任記念号にふさわしい記念号が発刊できた。これも田上先生の人徳の所以であろう。

2024年4月から阪南大学は、学部改組を行い、経営学部と総合情報学部、そして国際学部として、新しいスタートを切ることになった。阪南大学は、田上先生が学長在任中になされた学部改組を新たな財産として、その志を受け継ぐことになっている。心より、田上先生に感謝しつつ、編集後記としたい。

令和6（2024）年5月

編集委員会を代表して

副学長（前経営情報学部長）・経営学部教授

伊田昌弘